

核燃料サイクル施設シビアアクシデント研究ワーキンググループ (SAWG)
第2フェーズ 第1回 議事録 (要録版)

1. 日時 2015年5月20日(水) 9時30分～12時40分

2. 場所 秋葉原ダイビル18階 第3会議室

3. 出席者 (敬称略, 順不同)

主 査: 池田泰久 (東工大)

副主査: 村松 健 (東京都市大)

幹 事: 浅沼徳子 (東海大), 阿部 仁 (JAEA), 深澤哲生 (日立 GE)

委 員: 青柳春樹 (JNFL), 木村公英 (関電), 鈴木達也 (長岡技大), 鷹尾康一郎 (東工大),
塚田毅志 (電中研), 塚原剛彦 (東工大), 中村芳信 (JAEA), 藤井俊行 (京大),
眞部文聡 (MHI), 森岡信男 (MMC), 山根祐一 (JAEA), 吉田一雄 (JAEA)

オブザーバ: 天野祐希 (JAEA), 石尾貴宏 (JNFL), 加藤徹也 (電中研), 小玉貴司 (JNFL),
鳥居伸彦 (MHI), 藤原大輔 (TEPSYS), 松岡伸吾 (JNFL), 森田泰治 (JAEA),
吉田尚生 (JAEA)

説明者: 瀬下拓也 (JANUS)

4. 配付資料

資料 1-1 議事次第・SAWG2 メンバー出欠

資料 1-2 日本原子力学会誌「ATOMOS」, 解説“核燃料サイクル施設における対応を検討すべきシビアアクシデントの選定方法と課題”, Vol.57, No.5, 331-339(2015)

資料 1-3 核燃料サイクル施設シビアアクシデント研究 WG 第2フェーズの活動について

資料 1-4 SAWG 第2フェーズにおける事故影響評価に係る活動案

資料 1-5-1 日本原子力学会「核燃料施設事故影響評価手法調査」特別専門委員会, 核燃料施設の事故影響評価手法に関する調査 (説明資料)

(I)再処理施設における想定異常事象の種類と特徴

(II)溶液沸騰事象での放射性物質の移行割合に関する基礎データと試解析

(III)放射線分解水素爆発事象の事故影響評価手法に関する基礎的データ

資料 1-5-2 (IV)火災爆発事象の影響評価手法の検討 (説明資料)

資料 1-5-3 (V)臨界事故影響の評価手法と試解析 (説明資料)

資料 1-5-4 (VI)「溶融ガラスの漏えい」事故時の放射性物質移行率の調査・検討 (説明資料)

資料 1-6-1 NUREG/CR-7168 “Regulatory Approaches for Addressing Reprocessing Facility Risks: An Assessment”の概要

資料 1-6-2 NRC の再処理リスクに関する資料の紹介

資料 1-7-1 日本原子力学会発行 標準委員会技術レポートの紹介資料

資料 1-7-2 核燃料施設リスク評価分科会の設置について

5. 議事概要及び決定事項

(1) 主査挨拶及び出席者の自己紹介

第2フェーズ開始に当たって池田主査より挨拶があり、引き続き、各出席者より自己紹介があった。

(2) 第1フェーズの成果について (資料1-2)

村松副主査より、第1フェーズの成果の説明があった。第2フェーズでは、その中で挙げられた課題のうち、「シビアアクシデント (SA) 選定での影響評価」について主に検討する旨説明があった。

(3) 第2フェーズの活動趣意書について (資料1-3)

池田主査より、第2フェーズの活動趣意書の内容について説明があった。「再処理施設で発生が想定しうる事故の影響評価方法に関する現状の整理、課題の把握及び課題解決の方法について、客観的かつ専門的視点から検討を行いその結果をまとめる」ことを活動方針とし、活動期間は平成27年度までとする(継続の可能性あり)との説明があった。また、深澤幹事より、眞部委員と吉田委員を幹事として追加する提案がなされ承認が得られた。

(4) 第2フェーズの活動案について (資料1-4)

池田主査より、第2フェーズの活動案について説明があった。再処理施設で発生が想定しうる事故の影響評価方法の現状と課題に関する検討を行う旨説明があった。また、当面の活動計画案として、月1回の開催を予定し、各回に担当を割り当てることを提案したが、詳細は幹事会で議論したうえで改めて提案することとした。

(5) 「核燃料施設の事故影響評価手法に関する調査」の紹介 (資料1-5-1～1-5-4)

吉田幹事(資料1-5-1)、阿部幹事(資料1-5-2)、山根委員(資料1-5-3)、松岡オブザーバ(資料1-5-4)より、日本原子力学会「核燃料施設事故影響評価手法調査」特別専門委員会の平成16年度～19年度の活動成果について説明がなされ、情報を共有した。

(6) NRCの再処理リスクについて (資料1-6-1, 1-6-2)

眞部幹事より、今年2月27日に発行されたNUREG/CR-7168の概要が紹介された。また、JANUS瀬下氏より、NUREG/CR-7168発行に至る経緯について説明がなされ、情報を共有した。

(7) その他 (資料1-7-1, 1-7-2)

眞部幹事より、SAWG以外で核燃料施設の安全研究に関する活動が行われている日本原子力学会組織として、標準委員会原子力安全検討会の下部組織である「原子力安全分科会」(資料1-7-1)と、同委員会リスク専門部会の「核燃料施設リスク評価分科会」(資料1-7-2)の状況の紹介があった。両組織には、SAWGのメンバーも含まれていることから、今後、情報の共有化を図っていくこととした。

(8) 次回日程

日時：2015年6月25日(木) 16:00～19:00

場所：秋葉原ダイビル18階 第3会議室(予定)